

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 2 月 18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204276		
法人名	有限会社ネクストライ		
事業所名	グループホームきらら		
所在地	広島市中区千田町2丁目8-22		
自己評価作成日	令和5年1月16日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470204276-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470204276-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年2月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

『愛・笑顔・元気・安心』という施設目標・スローガンを掲げ、入居者様一人ひとりが輝き、生きがいをもって【普通の生活】を送るための支援を行えるよう、個々の想いや家族様の想いを大切にしながら、季節ごとの行事や日々のレクリエーション活動を行っています。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、地域行事が全て中止となってしまう、地域交流が思うようにできていませんが、職員が「ユマニチュードケア」を実践し、入居者様との距離を縮めて寄り添い、入居者様にとって施設が「我が家」になるよう、一人ひとりの居場所を大切に安心して生活できるよう支援しています。面会制限のある中、家族様のご要望に応じて感染対策に努めながら個々に対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者一人ひとりが生きがいを持ち、毎日が気持ちよく過ごせるよう施設目標、4項目を掲げ、利用者の思いや家族の思いを全職員が情報共有し、大切に普通の生活が出来るよう職員が笑顔のコミュニケーションを心掛け、家族のように必要としてもらえるよう日々支援に取り組んでいる。コロナ禍で外出支援や地域行事の参加が困難ではあるが、散歩や室内で出来る生活リハビリとして、レクリエーションの中に脳トレや筋力低下予防の足ふみ体操、手作業など取り入れ工夫をしながら実践している。面会自粛で家族や知人との面会が難しい中で、電話や2ヶ月ごとに日頃の様子や担当者のひと言を添えた写真付きの『きららうらら郵便』を送付し、近況報告などを行っている。今後はリモート面会や玄関での面会など検討中である。

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念を事業所理念として、朝礼・夕礼時に唱和を行なっている。又、理念を基に施設目標を作成し、入居者様・家族様へのサービス向上に努めている。地域に対しても職員に地域密着の施設であり、地域の一員であることを自覚するために施設目標に織り込んでいる。	事業所理念をもとに具体的な施設目標を揚げ、利用者一人ひとりが生きがいを持って、普通の生活が送られるよう、全職員が情報共有を図り、家族と共に地域から愛されるよう触れ合いを大切にするなど、具体的な指針を示し、日々実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事への参加・近隣保育園と入居者様の交流も定期的の実施していたが、現在は新型コロナウイルス感染症拡大の為、自粛している。感染状況を鑑み、現在は買い物は控え、散歩を中心に外出していただけるよう努めている。	買い物の際に挨拶、保育園児、ボランティアの来訪、地域行事(夏祭りなど)への参加、家族会、散歩途中に近隣住民との挨拶など交流をしている。今後は状況を見ながら外出の機会や交流の場を増やす予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の社会資源である近隣保育園と施設の交流を月に一度、定期的に行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の為、自粛している。また感染状況を鑑み、現在は買い物は控え、散歩の頻度を増やして外出できるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	他事業所・地域包括・家族様・入居者様に参加して頂き、状況報告や施設の取組み・行事等を報告し、助言を頂く場に行っている。コロナ禍の中、開催は中止し報告のみにしている。今後も地域の人等を含め参加者を増やして、様々な意見を多く聞き、取り入れていきたい。	利用者、家族、地域代表、交番、社会福祉協議会、地域包括支援センター職員など参加で開催している。現在は書面上での開催である。今後は状況・行事報告など参加者メンバーに書面送付や開催時に幼稚園園長、近隣住民に参加の案内など、多方面からの意見交換の場になるよう努める考えである。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の開催参加案内や開催後には内容報告を行っている。運営については相談や助言は随時行っている。	市町担当者に新型コロナウイルス感染症予防対策に関する相談や助言、認知症実務者研修、初任者研修など積極的な参加や運営推進会議の内容報告など密に連携を取りながら協力関係の構築に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を2カ月に一度実施していきながら、正しいケアを職員が自覚して実践できるよう『不適切なケア』『身体拘束』『虐待』が行われていないかのチェックシートを作成し実践している。これを基に管理者を中心に個々に面談等を行なっている。	身体拘束委員会で事例をあげて勉強会や年2回の研修で意見を出し合うなどしている。新人職員は正しく理解出来るよう基礎知識からの研修を行い、身体拘束をしないケアの意識向上を深めている。個々に面談や事業所独自のチェックシートを活用し検証を行い、身体拘束をしないケアをしている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	主に内部研修を実施し、外部研修への参加についても機会の確保に努めている。スピーチロックや、虐待防止のチェックシート等を利用し、職員の意識の向上を図っている。職員間のコミュニケーションを多く持ち、一人で抱え込まない環境づくりに努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を行ない、権利擁護の知識を深めている。実際に入居者様の中に成年後見人制度を利用されている方もいらっしゃるため、日常の業務の中で理解をする機会がある。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項・運営規定を理解していただけるよう、説明している。その時点で質問があれば説明・補足を行ない、その上で契約をしていただいている。解約時は面談を重ね、説明を行なっている。また退居後の支援についても行なっている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍のため運営推進会議自体は延期している。問題点や要望があれば早期解決を図り、報告をさせていただいている。カンファレンス時にも意見・要望を聞かせていただき、日常のケアに反映している。家族様には電話や手紙等で近況報告をしている。	対面の面会は自粛となり、電話や隔月発刊の『きららうらら郵便』で利用者の日頃の様子や食事風景、本人のひと言、書く事が難しい方には職員が代筆を行い、担当者の言葉を添えた写真付きの便りを送付し、家族の意見を聞く機会を設けている。今後はリモートや玄関での面会を検討している。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度代表者を含めた管理者会議があり施設の状況・意見も交換の場が設けられている。その後リーダー会議・ユニット会議等で情報共有されるようにしている。定期的な会議を開催し現場の日々の業務の改善に対する提案や意見聴取を行い反映させている。	管理者会議、リーダー会議、ユニット会議での情報を共有している。個人面談や日頃の業務の中で、提案やアイデア、希望休や備品についても意見が出しやすい環境体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員に対して個人面談を定期的に行い、スキル目標・一年後の目標・三年後の目標を聞き、業務に対する考え・意見の聞き取りを行い、給与査定・賞与査定の参考にしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部・外部研修問わず、積極的な研修参加を促している。資格取得に関してもかかる費用や研修費は会社が負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同法人内の他施設と研修を通じ様々な情報交換を行い、他施設の良いところを取り入れ、当施設でも取り組むことが出来ている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	契約前にご自宅・施設等に訪問をし、本人様・家族様と一回以上の面談を行っている。不安なこと・施設で生活される中でのご要望、職員がお手伝いさせて頂けることなどの話し合いを行ない、関係づくりをさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居にあたり、見学时や契約時、面談の際に要望や質問へ応えるようにし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設見学をしていただき入居様の状況を詳しく伺い、担当ケアマネージャー様からも聞き取りを行い、ケアプランを作成しサービスを開始している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の尊厳を守りながら、共同生活の一員であることを認識して頂き『普通の生活』を送れるように、日々の中で会話をしたり、食事を食べたり、時には家事のお手伝いをして頂き、関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設目標の『家族様と共に支援いたします』という目標を掲げ、面会に来られた家族様に状況報告を行う等、家族様との会話を大切に、遠方の家族様には電話やFAX等で状況をお知らせし、家族様の要望を聞きながら、共に入居者様を支えていけるよう、関係を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	2ヶ月に1回、入居者様にも直筆で手紙やがきを書いていただき、決まった日に送るようになっている。書けない入居者様に関しては口頭で聞き、職員が代筆している。	コロナ禍で馴染みの人や場との関係は出来ていないが、家族宛てに写真やコメント添えの便りを送付して日頃の様子を伝えている。日頃の何気ない会話の中から好みのパンが聞けたり、気分転換に建物の外に出て、外気浴や散歩など出来る範囲内で支援している。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーション・行事・外出支援等、交流が出来るようにし、ユニット内においても座る席を工夫し気軽に会話出来るよう考慮している。 食器拭き・洗濯たたみ等をしていただきながら会話していただけるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後もその後の経過、ご様子等を電話でお伺いして、相談が気軽にさせていただけるようにしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の話を傾聴し、家族様が面会に来られた時に普段の様子等を職員から報告させていただいたり、カンファレンス時に本人様や家族様の意向を聞き、本人様の意向に沿えるようにサービスの提供を行なっている。現在、面会制限あるため、電話での情報収集に努めている。	生活歴や職員が家族のような思いで、寄り添う会話の中から、好物や趣味を確認し、把握困難な利用者は家族や医師から把握し、利用者の思いや意向を情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活の様子を本人様・家族様・担当ケアマネ様より情報収集を行なっている。他施設をご利用だった場合にはその施設に可能な限り出向き、担当者様からの話しも聞かせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録や申し送りノートに記入し、朝夕礼時、職員間で情報共有している。できない事よりもできる事に焦点を当てることでその方の力を発揮できるケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族様参加のカンファレンス・担当者会議での意見、課題等をケアプランに反映して支援を行っている。訪問看護師と現場職員の間で連携が取れるように、医療連携ノートを作成してケアプランに反映できるようにしている。</p>	<p>利用者、家族の意向、要望を聞き取り、医療関係者と連携を図り介護計画を作成している。普通に生活する上で出来そうな事、やってきた事を短期目標に揚げ、毎日のチェック表や個々の記録を検証し、モニタリングを行い、多職種の意見や、提案を反映した現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人記録に気になることや特変等を記録している。 職員間の情報共有は朝夕礼時の申し送り、連絡ノート等を利用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>コロナ禍の為、外出支援・個別支援としてお買い物にお連れしたり、家族様との外食・外出は自粛しているが、昼食にサンドイッチパーティー・おやつパーティーを行事の一環として開催をした。写真やお便りでご様子をお知らせしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>区民センター内にある図書館を利用したり、郵便局・スーパー・公園・神社等の地域資源を活用できるよう支援させていただいているが、コロナ禍の為、資源の活用ができていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>施設協力医への主治医変更の意向確認を契約時に行い、適切な医療が提供できる体制作りをしている。 随時、関係者と連携をとり受診や往診を行っている。</p>	<p>契約時、主治医の説明確認を行い、殆どが協力医療機関が主治医である。変更の際は以前の主治医の紹介状や情報の提供がある。隔週の往診や週1回の訪問看護で健康管理を行い、専門医受診は主治医の紹介状を持参し、基本家族対応、遠方の家族希望で職員が同行受診する等、適切な支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師と現場職員の連携を図るため医療連携ノートの活用を行いながら、往診時に連絡の漏れがないよう工夫をし、24時間訪問看護師と主治医との連絡がつくような体制を取り、現場職員が指示を受けて対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は入院先の相談員、家族との連絡を定期的に行い、再入居に向けて準備している。 また、定期的な電話連絡にて情報を病院関係者より提供していただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りの指針の書面を通して重度化した場合や看取りに対しての話し合いを行っている。重度化された場合、医師・ケアマネ・管理者・家族様と担当者会議を行ない、グループホームで出来ることを理解していただいた上で支援を行なっている。	契約時、書面を通じて看取りの指針を説明確認をしている。重度化した場合、家族に確認をしている。基本看取りはしていないが家族の要望もあり看取りを行った事例がある。家族、医師、看護師、職員など多職種で話し合いを重ね方向性を決め、連携を図りながら寄り添う支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDの研修・緊急時の対応の研修を行っている。緊急時・事故発生時の連絡網を作成し、各ユニットに掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を行っている。コロナウイルス感染症拡大の為、実地訓練を1回行い、あと1回は勉強会や施設内で自主避難訓練を行っている。 災害時には警備会社や、近隣住民にも協力していただけるよう連携を取っている。	年2回消防訓練をしている。そのうち1回は消防署員立ち合いで消火器の指導、避難訓練経路確認など、実地訓練をしている。自主訓練では電気系統火災を想定して初期消火、カルテ持ち出し、優先順位、災害時手順など確認をしている。備蓄(乾パン、水など)3日分、小型ラジオなど装備している。	



自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護保険法の「尊厳を守る」「自己決定」「自己選択」を職員一人一人に周知していけるよう、施設目標に織り込み、トイレ誘導時・就寝時等、個人のプライバシーが守られるように支援している。又、身体拘束委員会等で事例を取り上げ、職員に周知している。	事例をあげた研修などで、情報共有し、利用者一人ひとりが、自己選択、自己決定が出来るよう支援している。利用者にあった言葉かけや声掛けを行い、人生の先輩として人格を尊重し、プライバシーを損なう事のないよう丁寧な対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様から話が傾聴できるよう施設内の雰囲気気に気を配り、入居者様との会話を大切に、想いを汲み取り、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の介護度やレベルに合わせ個別レクリエーション・個別支援を行ない、入居者様主体の生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族様に季節に合った洋服を準備していただき、好みの洋服を着ていただいている。2カ月に一度、訪問美容師にカットしていただいたり、希望に応じてカラーリングもしていただいたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	軽作業（食器洗いや食事の盛り付け、皮むき、お茶の準備など）や買い物等、保持能力を活かしつつ、楽しい食事となるよう職員が声かけ支援している。行事の際、カレーライスやうどん等を作り、目でも楽しんでいただけるよう、形・色合い等も工夫して提供している。	3食外注業者の献立であり、厨房で温め盛り付け、配膳をしている。利用者の体調に合わせ、刻み食やトロミ食を提供している。行事食におせちやちらし寿司など食材の形や色合い、おやつにホットケーキや蒸しパンなど食を楽しむ工夫をしている。声掛けにより盆拭き等出来る事を喜びに繋げている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士が立てた献立を提供している。食事量は入居者様に適した量を提供し、水分摂取量は記録により管理を行ない確保している。入居者様の好みの水分(お茶・コーヒー・紅茶・ポカリスエット等)を提供し飽きないように摂取していただく工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアの声かけや介助を行い清潔保持を促している。希望者には訪問歯科を調整し、診察してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行なっている。日中はリハビリパンツやパットを使用し、夜間はセンサー活用し、トイレ誘導を行なっている。歩行可能な方は体操の中に足踏み等を取り入れ、生活リハビリを行なっている。	個々の排泄パターンを排泄チェック表で把握し、仕草や表情で声掛け誘導している。レクリエーションの中に生活リハビリとして体操など取り入れ、トイレに座っての排泄支援に取り組んでいる。自分でパット交換や汚物入れに処理するなど自立支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取や運動を促し自然排便できるよう取り組んでいる。排便コントロールについては、主治医や訪問看護師と連携し行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の場合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	清潔保持の為、週2～3回入浴できるよう支援している。体調不良の方は清拭と陰洗を行ない、手足浴等も実施している。入浴剤等を使用して入浴が楽しめるような工夫をしている。	家庭用浴槽でゆっくり入浴出来るように手すりや踏み台など福祉用具を装備し、安全に入浴出来るよう支援をしている。浴室、脱衣室との温度差に配慮し、冬場は浴室から出る際にバスタオルを身体にかけるなどしている。入浴を拒まれる利用者には、前日に声掛けをするなど個々に応じた支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	時間に捕らわれず、入居者が自宅で生活しておられた生活リズムで施設でも過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬管理表を用いて服薬漏れがないようにしている。又、誤薬がないよう二重確認をしている。入居者様の前にて声を出して日にち・名前・錠数・○食後等の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家族様に協力していただき、嗜好品を持参していただいている。近所に買い物に行くなどの外出支援や、公園や近所の散歩を楽しんでいただけるように機会を作っている。コロナ禍のため、外出の機会を自粛せざるを得ないのが心苦しい。散歩のい行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為、家族様との買い物や食事、外出、外泊は自粛している。地域のスーパーやコンビニエンスストア、公園へ行き、地域の人々との会話を楽しんでいたが、感染状況を鑑み、現在は買い物を控え、散歩のみ実施している。	図書館、コンビニへの買い物、公園に出掛け写真を撮るなどしてきたが、現在は出来ていない。現在は洗濯物の干し場に職員と出たり、散歩に出かけ、外気浴や日光浴を楽しむ支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失等の事故を防ぐため家族様と相談して事務所でお金を預かり、外出支援の時に入居者様にお渡しして買い物を楽しんでいただいていたが、コロナ禍のため、職員が代わりに入居者様の希望する物を購入するようにしている。収支は毎月家族様に報告させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎月、家族様宛の手紙を準備し、できるだけ入居者ご本人様に手紙を書いていただき発送している。又、ご希望があれば電話をかけることもしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた掲示物や装飾を行い、季節感を演出している。湿度は40%、室温は25度を保てるよう調整している。ソファを置いて寛げるようにしている。入居者様と共同して季節に応じた飾りを居間に飾るなど配慮している。	フロアの壁面に四季を感じてもらえるよう季節の飾り付けをしている。感染症対策として空調管理、温度、湿度器で湿度調整などしている。寛いで過ごせるよう机、椅子、ソファ、テレビの設置など工夫をしている。トイレに移動する時、分かりやすく矢印で表示するなど、工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間でも決まり事はなく利用者が自由に過ごせるよう配慮している。リビングにソファを置き、自由に座って頂き、テレビを観たり、おしゃべりをしたりされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居契約時には、慣れ親しんだものを持ち込んでいただき、施設なじめるように工夫している。家族様の写真やお気に入りの品々を居室に置いて、安心して居心地の良いスペースを作っている。フルーツや花のプレートをかけ、識別できる工夫をしている。	自宅で使い慣れた物、馴染みの物を持参している。木彫りのタンス、カレンダー、昔の写真、寝心地よく眠れるよう布団や毛布の持参もある。個々の居室入り口は花やフルーツの名前で表示していて、分かりやすいよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニット内にトイレ・洗面所・お風呂があり、解りやすく移動しやすい動線になっている。台所もユニット内にあり、食事を準備する音や匂いが感じられるようになっている。		

V アウトカム項目( 1階 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念を事業所理念として、朝礼・夕礼時に唱和を行なっている。又、理念を基に施設目標を作成し、入居者様・家族様へのサービス向上に努めている。地域に対しても職員に地域密着の施設であり、地域の一員であることを自覚するために施設目標に織り込んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事への参加・近隣保育園と入居者様の交流も定期的実施していたが、現在は新型コロナウイルス感染症拡大の為、自粛している。感染状況を鑑み、現在は買い物は控え、散歩を中心に外出していただけるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の社会資源である近隣保育園と施設の交流を月に一度、定期的実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の為、自粛している。また感染状況を鑑み、現在は買い物は控え、散歩の頻度を増やして外出できるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	他事業所・地域包括・家族様・入居者様に参加して頂き、状況報告や施設の取組み・行事等を報告し、助言を頂く場に行っている。コロナ禍の中、開催は中止し報告のみにしている。今後も地域の人等を含め参加者を増やして、様々な意見を多く聞き、取り入れていきたい。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の開催参加案内や開催後には内容報告を行っている。運営については相談や助言は随時行っている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を2カ月に一度実施していきながら、正しいケアを職員が自覚して実践できるよう『不適切なケア』『身体拘束』『虐待』が行われていないかのチェックシートを作成し実践している。これを基に管理者を中心に個々に面談等を行なっている。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	主に内部研修を実施し、外部研修への参加についても機会の確保に努めている。スピーチロックや、虐待防止のチェックシート等を利用し、職員の意識の向上を図っている。職員間のコミュニケーションを多く持ち、一人で抱え込まない環境づくりに努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を行ない、権利擁護の知識を深めている。実際に入居者様の中に成年後見人制度を利用されている方もいらっしゃるため、日常の業務の中で理解をする機会がある。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項・運営規定を理解していただけるよう、説明している。その時点で質問があれば説明・補足を行ない、その上で契約をしていただいている。解約時は面談を重ね、説明を行なっている。また退居後の支援についても行なっている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍のため運営推進会議自体は延期している。問題点や要望があれば早期解決を図り、報告をさせていただいている。カンファレンス時にも意見・要望を聞かせていただき、日常のケアに反映している。家族様には電話や手紙等で近況報告をしている。		



自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度代表者を含めた管理者会議があり施設の状況・意見も交換の場が設けられている。その後リーダー会議・ユニット会議等で情報共有されるようにしている。定期的な会議を開催し現場の日々の業務の改善に対する提案や意見聴取を行い反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員に対して個人面談を定期的に行い、スキル目標・一年後の目標・三年後の目標を聞き、業務に対する考え・意見の聞き取りを行い、給与査定・賞与査定の参考にしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部・外部研修問わず、積極的な研修参加を促している。資格取得に関してもかかる費用や研修費は会社が負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同法人内の他施設と研修を通じ様々な情報交換を行い、他施設の良いところを取り入れ、当施設でも取り組むことが出来ている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	契約前にご自宅・施設等に訪問をし、本人様・家族様と一回以上の面談を行っている。不安なこと・施設で生活される中でのご要望、職員がお手伝いさせて頂けることなどの話し合いを行ない、関係づくりをさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居にあたり、見学時や契約時、面談の際に要望や質問へ応えるようにし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設見学をしていただき入居様の状況を詳しく伺い、担当ケアマネージャー様からも聞き取りを行い、ケアプランを作成しサービスを開始している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の尊厳を守りながら、共同生活の一員であることを認識して頂き『普通の生活』を送れるように、日々の中で会話をしたり、食事を食べたり、時には家事のお手伝いをして頂き、関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設目標の『家族様と共に支援いたします』という目標を掲げ、面会に来られた家族様に状況報告を行う等、家族様との会話を大切にし、遠方の家族様には電話やFAX等で状況をお知らせし、家族様の要望を聞きながら、共に入居者様を支えていけるよう、関係を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	2ヶ月に1回、入居者様にも直筆で手紙やはがきを書いていただき、決まった日に送るようにしている。書けない入居者様に関しては口頭で聞き、職員が代筆している。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーション・行事・外出支援等、交流が出来るようにし、ユニット内においても座る席を工夫し気軽に会話が出来よう考慮している。 食器拭き・洗濯たたみ等をしていただきながら会話していただけるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後もその後の経過、ご様子等を電話でお伺いして、相談が気軽にさせていただけるようにしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の話を傾聴し、家族様が面会に来られた時に普段の様子等を職員から報告させていただいたり、カンファレンス時に本人様や家族様の意向を聞き、本人様の意向に沿えるようにサービスの提供を行なっている。現在、面会制限あるため、電話での情報収集に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活の様子を本人様・家族様・担当ケアマネ様より情報収集を行なっている。他施設をご利用だった場合にはその施設に可能な限り出向き、担当者様からの話しも聞かせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録や申し送りノートに記入し、朝夕礼時、職員間で情報共有している。できない事よりもできる事に焦点を当てることでその方の力を発揮できるケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族様参加のカンファレンス・担当者会議での意見、課題等をケアプランに反映して支援を行っている。訪問看護師と現場職員の間で連携が取れるように、医療連携ノートを作成してケアプランに反映できるようにしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人記録に気になることや特変等を記録している。 職員間の情報共有は朝夕礼時の申し送り、連絡ノート等を利用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>コロナ禍の為、外出支援・個別支援としてお買い物にお連れしたり、家族様との外食・外出は自粛しているが、昼食にサンドイッチパーティー・おやつパーティーを行事の一環として開催をした。写真やお便りでご様子をお知らせしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>区民センター内にある図書館を利用したり、郵便局・スーパー・公園・神社等の地域資源を活用できるよう支援させていただいているが、コロナ禍の為、資源の活用ができていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>施設協力医への主治医変更の意向確認を契約時に行い、適切な医療が提供できる体制作りをしている。 随時、関係者と連携をとり受診や往診を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師と現場職員の連携を図るため医療連携ノートの活用を行いながら、往診時に連絡の漏れがないよう工夫をし、24時間 訪問看護師と主治医との連絡がつくような体制を取り、現場職員が指示を受けて対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は入院先の相談員、家族との連絡を定期的に行い、再入居に向けて準備している。 また、定期的な電話連絡にて情報を病院関係者より提供していただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りの指針の書面を通して重度化した場合や看取りに対しての話し合いを行っている。重度化された場合、医師・ケアマネ・管理者・家族様と担当者会議を行ない、グループホームで出来得ることを理解していただいた上で支援を行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDの研修・緊急時の対応の研修を行なっている。緊急時・事故発生時の連絡網を作成し、各ユニットに掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を行っている。コロナウイルス感染症拡大の為、実地訓練を1回行い、あと1回は勉強会や施設内で自主避難訓練を行っている。 災害時には警備会社や、近隣住民にも協力していただけるよう連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護保険法の「尊厳を守る」「自己決定」「自己選択」を職員一人一人に周知していけるよう、施設目標に織り込み、トイレ誘導時・就寝時等、個人のプライバシーが守られるように支援している。又、身体拘束委員会等で事例を取り上げ、職員に周知している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様から話が傾聴できるよう施設内の雰囲気や気を配り、入居者様との会話を大切に、想いを汲み取り、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の介護度やレベルに合わせて個別レクリエーション・個別支援を行ない、入居者様主体の生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族様に季節に合った洋服を準備していただき、好みの洋服を着ていただいている。2か月に一度、訪問美容師にカットしていただいたり、希望に応じてカラーリングもしていただいたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	軽作業（食器洗いや食事の盛り付け、皮むき、お茶の準備など）や買い物等、保持能力を活かしつつ、楽しい食事となるよう職員が声かけ支援している。行事の際、カレーライスやうどん等を作り、目でも楽しんでいただけるよう、形・色合い等も工夫して提供している。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	管理栄養士が立てた献立を提供してい る。食事は入居者様に適した量を提供 し、水分摂取量は記録により管理を行 ない確保している。入居者様の好みの水分 (お茶・コーヒー・紅茶・ポカリスエッ ト等)を提供し飽きないように摂取して いただく工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアの声かけや介助を行 い清潔保持を促している。 希望者には訪問歯科を調整し、診察して もらっている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、個々の排泄 パターンを把握し、トイレ誘導を行なっ ている。日中はリハビリパンツやパット を使用し、夜間はセンサー活用し、トイ レ誘導を行なっている。歩行可能な方は 体操の中に足踏み等を取り入れ、生活リ ハビリを行なっている。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取や運動を促し自然排便でき るよう取り組んでいる。 排便コントロールについては、主治医や 訪問看護師と連携し行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合 わせて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	清潔保持の為、週2~3回 入浴でき るよう支援している。 体調不良の方は清拭と陰洗を行ない、手 浴足浴等も実施している。入浴剤等を使 用して入浴が楽しめるような工夫をして いる。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	時間に捕らわれず、入居者が自宅で生活しておられた生活リズムで施設でも過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬管理表を用いて服薬漏れがないようにしている。又、誤薬がないよう二重確認をしている。入居者様の前にて声を出して日にち・名前・錠数・○食後等の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家族様に協力していただき、嗜好品を持参していただいている。近所に買い物に行くなどの外出支援や、公園や近所の散歩を楽しんでいただけるように機会を作っている。コロナ禍のため、外出の機会を自粛せざるを得ないのが心苦しい。散歩のい行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為、家族様との買い物や食事、外出、外泊は自粛している。地域のスーパーやコンビニエンスストア、公園へ行き、地域の人々との会話を楽しんでいたが、感染状況を鑑み、現在は買い物を控え、散歩のみ実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失等の事故を防ぐため家族様と相談して事務所でお金を預かり、外出支援の時に入居者様にお渡しして買い物を楽しんでいただいていたが、コロナ禍のため、職員が代わりに入居者様の希望する物を購入するようにしている。収支は毎月家族様に報告させていただいている。		



自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎月、家族様宛の手紙を準備し、できるだけ入居者ご本人様に手紙を書いていた だき発送している。又、ご希望があれば電話をかけることもしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた掲示物や装飾を行い、季節感を演出している。湿度は40%、室温は25度を保てるよう調整している。ソファを置いて寛げるようにしている。入居者様と共同して季節に応じた飾りを居間に飾るなど配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間でも決まり事はなく利用者が自由に過ごせるよう配慮している。リビングにソファを置き、自由に座って頂き、テレビを観たり、おしゃべりをしたりされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居契約時には、慣れ親しんだものを持ち込んでいただき、施設なじめるように工夫している。家族様の写真やお気に入りの品々を居室に置いて、安心して居心地の良いスペースを作っている。フルーツや花のプレートをかけ、識別できる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニット内にトイレ・洗面所・お風呂があり、解りやすく移動しやすい動線になっている。台所もユニット内にあり、食事を準備する音や匂いが感じられるようになっている。		

V アウトカム項目( 2階 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームきらら

作成日 令和5年3月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	面会の再開。	リモートでのオンライン面会及び制限を設け直接面会を行う。	10～15分の制限時間内での面会緩和。タブレット導入を考慮。	6ヶ月
2	4	運営推進会議の周困への通達。	運営推進会議の内容を関係各所へ通達する。	介護保険課や運営推進会議の構成メンバー、ご家族様等へ報告書類を郵送する。	1年
3	2	個別支援の強化。	散歩の回数を増やす。地域行事への参加。	入浴の日程を調整し散歩へ行く。町内の行事への参加。	6ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。